

ろじマチ通信



取組をつづけよう！

つづけよう、防災まちづくり

京都市では、平成24年度から
「優先的に防災まちづくりを進める地区（優先地区）」を
中心に、学区単位の防災まちづくりを進めてきました。

地域の皆さんが主体となり、まちの現状を把握することから始め、
3年間で、地域の皆さんのご意見をもとに
防災まちづくり計画を策定することを目標としています。

この春は、平成26年度から取り組んできた3学区の計画が、
京都市「路地・まち防災まちづくり計画」に認定されました。
その中心となって取り組んでこられた方々へ
お話を伺いました。（→2・3頁）

計画策定は、あくまでも通過点。

4年目以降も計画に基づいた具体的な取組が進んでいます。

平成28年度に計画が認定された上京区翔鸞学区及び
中京区朱雀第二学区の、その後の取組事例を4頁でご紹介します。

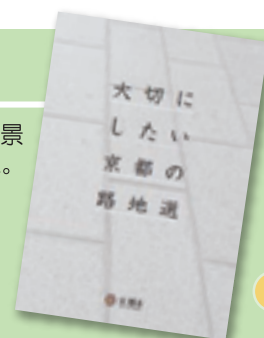
「大切にしたい京都の路地選」リーフレットを発行しました！

昨年度、京都市内で、路地の魅力を守り、生かすための取組が実施されている路地や、魅力ある路地の風景
写真を募集しました。ご応募いただいた中から、選定会議で選定された路地をリーフレットにまとめました。
京都市のホームページでご覧いただける他、京都市まち再生・創造推進室の窓口でも配布しています。

■「大切にしたい京都の路地選」概要

- (い) 路地を生かした取組部門…応募31件（うち30件掲載）
- (ろ) 路地のある風景写真部門…応募213点（うち85点掲載）

ホームページ
QRコード



紫野学区 (北区)

紫野学区防災まちづくり計画

～レトロで モダン そして安心 紫野～

紫野学区は、平安京造営の起点と言われる船岡山のふもとに位置します。寺社や祭など固有の文化が多く、西陣織の関連産業で栄えた歴史があります。

一方、路地の避難経路や延焼のおそれ等、防災上の課題があります。町ごとの防災まちあるきで、住民のみなさんとともに課題箇所を丁寧に確認しました。

また、火の用心や地藏盆など昔ながらの文化は、観光客など外の目にはレトロに映り、防災に必要な不可欠なコミュニティ形成の秘訣でもあります。レトロな良さを持ちながら、新しいことを取り入れたり、時代の変化にも向き合ったりしていきたい、そんな前向きな姿勢で防災まちづくり計画が策定されました。



1



2



3



4

＼地域からの声／

“まちあるきでひび割れた石塀や老朽化建物等が意外と多く見つかりました。改善のチャンスを逃さないよう、地域の動向を把握して、働きかけていきたいです。”

また、地域の集合場所は、災害時に集合するためだけでなく、被災後の物資供給等の中継地点としても重要と考えています。計画の実現も、まずは集合場所の周知から始める予定です。合わせて、どのように活用していくか、その使い方も伝えていきたいです。”

紫野学区防災まちづくり
委員会
白瀧 雅章 委員長



写真 1：防災まちづくり計画書の表紙は学区の祭や町並みをデザイン。2：まちあるきでは様々な発見がありました。3：まちあるきのスタート及び振り返りは、地域の集合場所で。4：地図上で災害時のシミュレーションをする災害図上訓練の様子。

路地・まち防災まちづくり計画 認定されました！

平成26年度から防災まちづくりの取組を開始した北区紫野学区、中京区朱雀第一学区及び上京区成逸学区で、3年間の活動を踏まえ、今後の方針や取組内容を示した防災まちづくり計画をそれぞれに策定され、京都市長から「路地・まち防災まちづくり計画」として認定を受けました。

各学区の計画は、京都市のホームページでもご覧いただけます。右のQRコードもしくは「京都市 防災まちづくりの事例」で検索してください。



第21回 防災まちづくり大賞
消防庁長官賞受賞

受賞

成逸学区 (上京区)



意見交換会の様子。専門家も入って意見を集約します。

朱雀第一学区 (中京区)

朱雀第一学区防災まちづくり計画

～人と人の繋がりを大切にして 子どもたちの未来を想い
災害につよいまちをつくる～

朱雀第一学区は、平安京のほぼ中心に位置していました。明治後半から住宅地として市街地化が進み、現在も戦前の路地や木造住宅が多く残っています。

昔から地域と学校が一体となって地域活動に協力してきた朱雀第一学区。防災まちづくりにおいても、朱雀第一小学校と連携し、防災教育を兼ねた活動に取り組まれました。(ろじマチ通信 vol. 3 参照)

地域の皆さんへのアンケートや座談会で明確になった「京都らしい町並み」「コミュニティの強さ」等のまちの魅力を再認識し、次世代の子どもたちを想い、住民がともに協力しながら災害に強いまちをつくるための計画が策定されました。



1



2



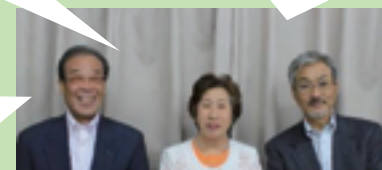
3

“地域住民の『参加する気持ち』を高めるよう取り組んできました。最近、町内の防災部長の引継ぎに協力してくれる方が出てくる等、成果を感じ始めています。子どもたちも沢山の意見をくれました。”
(朱一学区防災まちづくり協議会 竹岡 清榮 会長)

＼地域からの声／

“計画の実行には、町内会の結束力が一番大事。町内会ごとに状況は様々ですが、昔のような熱い関係で取り組んでいけるよう、働きかけていきたいです。”(同 古川 岩夫 副会長)

“子どもが動くと、大人も気にかけてくれます。取組を通して、絆が深まってきていると感じます。計画が完成し、これからは継続することが重要です。”
(同 奥本 詔八郎 副会長)



4

写真 1：昔ながらの町並みが多く見られます。2：子どもたちに防災倉庫について説明する古川副会長。3：防災まちづくり計画書の表紙は学区の町並みをデザイン。4：地域のみなさんの座談会は大盛り上がりでした。

成逸『路地・まち』防災まちづくり計画

～みんなで守り、支えあう、
安全で住み良い成逸のまち～

成逸学区では、以前から町内会への加入促進や住民同士の交流に取り組むと同時に、町内会単位で防災に必要な情報を把握・共有・更新してきました。

そうした活動の中で、路地が多いという特徴を地域の方々が再認識したことをきっかけに、地域独自のやり方で防災まちづくりの取組が始まりました。京都市景観・まちづくりセンターの専門家派遣事業により派遣された石本さんの応援もありました。(ろじマチ通信 vol. 6 参照)

防災まちづくり計画もそれまでの基盤を生かし、町内会ごとに課題箇所や具体的な対策の取組等をまとめています。さらに、個人、町内会単位、学区全体のそれぞれの役割と具体的な取組を示し、相互に連携・協働を図りながら防災まちづくりを進めていきます。

今年は、これまでの継続的な独自の取組が評価され、「防災まちづくり大賞 消防庁長官賞」を受賞しました。

＼地域からの声／

“これまで10年にもわたるまちづくり活動の一連の流れから、「成逸学区にはこの形しかない！」という計画ができました。

地域それぞれに特色があるはずで、それに合ったやり方をするのが良いと思います。成逸学区の場合は、町内会単位で進める方法が一番スムーズで、たくさんの住民に協力してもらえます。

とはいえ、具体的な改善を進めるとなると難しい場合も多いので、どのように働きかけていくのが今後の課題です。”



成逸まちづくり推進委員会
川田 雄司 副委員長

同
山元 國隆 顧問

京・まち・ねっと
石本 幸良 さん

このプロジェクトは、翔鸞学区防災まちづくり計画に基づき、日頃から防災に関する取組や災害時における避難経路を意識することを目的に実施されたものです。掲示板は、自治会館の翔鸞会館入口に設置し、防災まちづくりの定期的な情報発信を行います。

防災教育看板は、子ども向けに防災教育を行うため、翔鸞小学校内に設置。学区行事の際に多くの人の目に触れやすい位置を選びました。現在、子ども向けセミナー等の活用方法を考えています。



↑会館入口に設置された掲示板。



→小学校に設置された看板には学区の大きな地図が描かれています。

“ 掲示板は、他の学区の取組も参考に、5～6 回もの会議で色や大きさ等を検討しました。時には、会議後の雑談の中でも議論になることも。完成後は、掲示板の前で掲示物についてお喋りする人を見かけ、嬉しくなりました。

小学校の看板は、小学校のホームページに掲載いただいたほか、学区の行事等で地域の皆さんに PR していきます。防災について意識してもらうきっかけになればと思います。”



翔鸞学区防災
まちづくり協議会
鶴川 健 会長

防災まちづくりプロジェクト実施報告

平成28年度に防災まちづくり計画を策定し、京都市の認定を受けた翔鸞学区と朱雀第二学区。今回紹介するプロジェクトは、計画の具体化に向け、地域の方々の思いを形にされたものです。それぞれのプロジェクトの実現を機に、さらなる取組を進めていくこととされています。

集合場所への銘板設置プロジェクト

防災まちづくり計画に掲げた8つのプロジェクトのうち、目に見えることから始めようと、取り組まれたプロジェクトです。災害時に使用できる井戸は、取組のシンボルとして、避難所となる小学校に設置されました。銘板の設置にあたり、実際の安全性等を見直す機会にもなり、より適した場所に変更した町内もあります。

朱雀第二学区では、自主防災会を中心に各種団体長や各町防災部長・副部長の協力により、約100名の体制を築いています。学区全体で協力し、防災まちづくり計画の実現に取り組んでいます。

写真 左：銘板の一例。
右：災害時に使用できる井戸。



“ まずは自分達の力で達成できるプロジェクトに取り組み、実現することができました。災害時の拠点となる集合場所を、皆さんに覚えてもらえたらと思います。

今後は相手のあるプロジェクト、たとえば、みちのマナー向上など、住民への説得や協力要請が必要なことにも取り組む必要があります。難しいことですが、実現したことをステップに、どう工夫していくか考えていきたいです。”



朱二学区
自主防災会
北川 惣太郎 会長



＜お問い合わせ・ご相談はこちらまで＞

京都市都市計画局 まち再生・創造推進室（密集市街地・細街路対策担当）
TEL 075-222-3503 FAX 075-222-3478

■京都市印刷物
第294338号
平成29年7月発行

→バック
ナンバー
はこちら



京都市
この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ